

輝かしい未来の留学生諸君へ 〜トータル経験者のアドバイス

快適な留学生活を送るポイントはたった一つ。ネイティブの友人をたくさん作ること。これに尽きます。困ったことは何でも相談、知っていることも知らないフリして相談すること。留学生とは情報量が圧倒的に違います。私は渡航4日目で大学図書館に勤務する女性（日本語はカタコト）と知り合い、図書館の使い方をマスターしました。アドレス交換第1号です。図書館受付で「3日前に日本から来ました。1年間、留学生として中国に滞在して中国語を勉強します。初歩的なテキストを紹介してください。」と尋ねると、「日本語が少し話せるスタッフがいたので紹介しましょう。」となりました。いきなりラッキーなスタートです。また渡航7日目にトータル女子大学生と知り合い、即アドレス交換。学内の売店で、暇そうな学生に狙いを定め「私は日本人、初めてこの店に来ました。ヨーグルトが食べたいのですが、どれが一番美味しいんですか？」と尋ねました。最初の二人は「忙しい」「ゴメンナサイ」と取り付く島もナッシングでしたが、3人目の彼女は、丁寧に教えてくれ、おまけに私に興味を持ったようでいろいろ質問してきました。「これは脈あり！」とアドレス交換。何もわからないフリをすると母性本能をくすぐるようです。WeChatの使い方、ネットでの買い物の仕方、便利なアプリ、図書館の使い方（すでにひと通り知っていましたが、知らないふりをして聞くのがポイント）、学生食堂の美味しい料理、キャンパス内の便利な施設、はたまた別の友人を紹介してくれるなど、至れり尽くせりで、とても有難かったです。中国語の勉強相手にも最適です。帰国まで彼女との交流は続きました。初対面の人が、自分に興味があるか否か、アドレス交換していい相手か否かというのは、人間、本能的にわかります。

この1年間は、とにかく「ヒマ」です。少なくとも、「忙しい」というシチュエーションはありません。寮の部屋に籠っていても何も起きません。用がなくても学内を歩き回りまくって、人のいる場所へ顔を出しましょう。私は学内をブラブラ散歩している時、脇見運転の自転車に後から激突されたことがあります。幸い大事には至らず、相手は相当恐縮して謝ってきました。仲間が5、6人おり、私が外国人であることがわかると、興味を持ち始め、最終的にアドレス交換まで至りました（長い付き合いにはなりませんでしたが）。また、散歩していた時、たまたま学内サークルの一斉勧誘日と重なって、日本語勉強サークルの代表者と知り合い、長く交流しました。私個人の考えですが、「ネイティブとの交流こそ中国語上達の近道」と考えます。



留学生仲間は普通にしていれば、自然にできます。毎日顔を合わせることになるし、留学生はみんな一人では不安で、友達を作りがついています。私は年齢が極端に上だったため、仲間ができるか不安でしたが、杞憂に終わりました。たまたま一緒に勉強する仲間の一人の年が上だった、というだけのこと、それ以上でもそれ以下でもありません（ただクラスメートに17歳の女性がいて、祖父の年齢が55歳と知った時は目まいがしました）。ポイントは早く相手の顔と名前を憶えて、名前を呼んであげること

（「ネエネエ」ではなく、きちんと名前を呼んであげることが大切）。また自分の顔と名前を憶えてもらうこと。私は「張本」（「ジャンベン」と読む）ですが、もう一人の日本人が「山本（シャンベン）」だったため、似ていて混乱するなと感じ、名前を使うことにしました。中国では名札を付ける習慣がありません。私はあえて「大介」（「ダージエ」と読む）とでかい字で書いた名札を作り、いつも首からぶら下げて、みんなに名前を覚えてもらうようにしました。また、みんなに顔も覚えてもらえるように、授業の時に座る席は、常に最前列のど真ん中。一番後ろの席に座って、いいことなどひとつもありません。「日本では自分の名前が相手にわかるように名札というものを常に身につける習慣があるんだよ。」と会話のきっかけにもなり、功を奏しました。おかげで、先生も留学生もみんな自分の顔と名前を憶えてくれました。そのかわり、私もみんなの顔と名前を必死に覚えました。親しくなってくると、会話も弾みます。「昨日、太原博物館に行ってきたよ！」と自慢げに話しかけられたら、たとえ自分はとっくの昔に行ったことがあっても「えーっ本当？俺も行ってみたいと思ってたんだ！どうだった？人は多かった？入場料はいくら？バスで行ったの？」となんでも聞いてあげましょう。相手は自慢したいので、うれしくてどんどん喋ってきます。中国語の勉強にもなります。「そんなとこ、ずっと前にもう行ったよ！」と言ってしまったら、それで会話が終わってしまいます。まあ、人付き合いの1丁目1番地といったところです。中級班にはベトナム人の女性が多く、名前を覚えるのは骨が折れましたが、最終的には全員覚えました。

WeChat（すべての中国人が使うアプリ、日本の Line です）の友達も渡航前は10人にも満たなかったのですが、今はゆうに100人を越えました。「この人誰だっけ？」と全く思い出せない人も多く、また1回もメールのやりとりをしたことのない人も相当いますが...

あと私が実践したのがネイティブ、留学生を問わず、写真を撮ってあげること。簡単でお金も時間も手間もかからず、とても便利です。アドレスを交換したいと思っている人と食堂や売店でバッティングしたら、「写真撮ってあげる、後で送るからアドレス交換しよう!」と言って断られたことはありません。初対面でアドレス交換できたら、「私は若くないので、人の顔をすぐに忘れてしまいます。あなたを忘れたくないで一緒に写真撮りましょう!」と言えばほぼ大丈夫(こちらは一度だけ断られた苦い経験あり)。私はちょっとおもしろそうだな、と思ったら迷わずシャッターを切っていました。本当に不要なら後でポイするだけ。何気なく撮影した1枚が後で結構役に立ったりします。友達を見つけたら、バレないように写真を撮って、いきなり送ってあげます。怒られたことはありません。感謝されること必須です。こういうことを積み重ねていくと、不思議なもので、相手も進んで私の写真を撮って送ってくれるようになります。ギブアンドテイクの典型例といったところでしょうか。この1年間で撮り貯めた写真は3,000枚ほど。多いのか少ないのか全くわかりませんが、今となってはどれも貴重な1枚です。

あと、これは私が実践できずに最後に後悔したのですが、先生の写真をたくさん撮ってあげましょう。たくさん撮りためておいて、最後お別れの時に写真を送ってあげると、300%大喜びの大爆発です。期末試験後のパーティは3人の先生も招待、参加してくれました。事前にみんなで先生の写真を集めようとしたところ、意外に少ないことがわかりました。私の担当の先生は3人とも女性。くたびれた格好をしていることも多いですが、月に1度くらいは素敵な衣装を身につけていたり、「今日はメイクが決まってるじゃん!」という日があります(私はいつも最前列に座っていたので、よく観察していました)。撮った写真をしょっちゅう送ってあげると、先生も気を遣って「そんなことしてくれなくていいわよ。」となってしまうので、最後の最後まで夕陽のガンマン(再登場!)がポイント。また、記念すべき第1回目の授業の写真も撮っておきましょう。私の時は最初の授業がどんな感じだったのか、写真も音声も何も残ってないので、全く記憶にないのですが、女性の先生なら一発目の授業は、衣装もメイクもバッチリ決めてくるはずです。授業中、写真撮影は全く問題なし。私も板書事項をノートに写し間違えるのがイヤだったので、最初からバシバシ写真を撮っていました。

中国語を教えてもらったり、いろいろお世話になった人には、ネットで購入した「白い恋人」をプレゼントしていました。「白い恋人」は留学生、ネイティブともに大好評で、ネットでのべ1,000個は購入したと思っ

ます。「日本で一番人気のあるお菓子です、どうぞ。」と言って嫌がられることはありません。ネイティブはこれで大体終わりなのですが、留学生はこの後、お礼に自国のお菓子などをくれることが多かったです。これも国民性の違いかな、おもしろいな、と感じました。食べ物の話題は万国共通で、会話は無限に広がります。会話に詰ったら、「あなたの一番好きな食べ物は?」「あなたの国では何が美味しいの?」「大学周辺で美味しいお店教えて」と食べ物の話が一番いいと思います。

これも大事なことですが、この留学を真剣に考えている方がいたら、「中国語が大好き!」ということが絶対条件です。中国語の知識はゼロでも OK、初級クラスでそれぞれ初歩の初歩から学べるので、変な癖がついたりせず、逆にとても賢明な選択だと思います。私個人で言えば、中国語は三度の飯より好きで、定年後は中国語を糧にしていくことを決めていたので、中国語漬けの生活を送ることに迷いはなく、苦になることは全くありませんでした (私の日本での勉強歴は10年)。「中国語は好きでも嫌いでもない。」というくらいでは、ちょっと考えた方がいい気がします。留学期間中、楽しいことははっきり言って、ごくわずかです。99%は毎日朝早く起きて、中国語の授業を受けて寮に戻って宿題、予習、復習をする、といった単調ヅルこの上ない毎日の連続です。中国語への意欲が低く、授業に出てこなくなって、いつの間にかいなくなっている留学生を何人も見てきました。中国語が好きでも嫌いでもない、というレベルでは、毎日相当苦痛に感じると思います。毎朝8時開始の授業に出席し続けるのは容易なことではありません。大雪の日、極寒の日、体調が悪い日等いろいろあります。私は、一度でも授業を休むと、癖になってそのままダラダラ奈落の底へまっしぐら、となってしまう気がして、毎日、歯を食いしばって朝起きて、8時前には着席していました。誠に手前みそですが、私は1年間、無遅刻・無欠勤を通しました。成績優秀な生徒ではありませんでしたが...

この1年の総括は文章よりも写真の方がイメージが伝わりやすいので、写真に代えさせていただきます。

